

特集

令和6年度事業・決算報告



完成間近の新本設建物(正面) 練馬福祉園

トーク 逆転しない正義と福祉の姿勢

今年、日本は戦後八十年の節目を迎えました。昭和二十年八月十五日、日本は終戦を迎えましたが、戦争の爪痕は今なお、社会の奥深くに影を落としています。戦争は命だけでなく、人の尊厳や価値観、そして「正しさ」すらも壊してしまいます。

今、放映されているNHK朝の連続テレビ小説『あんぱん』では、そんな混乱の時代を生き抜いた人々の姿が描かれています。登場人物の、のぶと嵩は、戦争によって人生を大きく狂わされながらも、自分自身の正義を問い直し、誰かの力になりたいと願うようになります。

特に心を打たれたのは、ふたりが傷ついた人々にそつとあんぱんを手渡す場面でした。それは、ただ空腹を満たすのではなく、「あなたのことを思っている」「ともに生きよう」という静かな希望のこもった行為に見えました。苦しみの中、それでも誰かのために動くこうとする姿勢は、福祉の原点に重なります。

『アンパンマン』の作者・やなせたかしさんも、戦争体験の中で「敗戦とともに、それまで、戦争に勝つことが正義とされていた価値観が、一夜にして悪とされた」という現実を目の当たりにしました。その体験を経て彼はこう語ります。「本当に正しいことは、困っている人に食べ物を届けることなんです。正義というのは、献身であり、愛なんです。それだけが、逆転しない正義なんです。」

私たちの身の回りでも、福祉の現場でも、立場や制度ではなく「目の前の人」の声に耳を傾け、小さな支援を惜しまないことが大切ではないでしょうか。

私たちもまた、あんぱんのように、あたたかさや力をそつと届けられるような人になりたい、そして、ありたいものです。

令和6年度 社会福祉法人武蔵野会 事業報告書(概要)

未来に向かう武蔵野会

自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」この法人理念のもと、支援を必要とする人たちの意思を尊重して、安全で安心した尊厳ある暮らしを将来にわたり支援できるよう努めました

安定した運営の礎を築く

「人材強化と財務の健全性」
利用者の生活を継続的に支えるサービス提供と事業継続には、「人材の強化」と「財務の健全性」が不可欠です。

令和6年度は、人事管理では、法人全体の人事情報の可視化を進め、「人事大臣」システムを稼働させました。

採用活動は、早期から展開したものの、新卒採用は前年比68%と厳しい結果になりました。中途採用では44名を迎えることができ、経験豊かな職員を多数迎え入れることができたのは、

大きな成果でした。

新たな力が各施設で活躍を始めています。採用難が続く中でも、「人を大切にする法人」であることを軸に、職場環境づくりに努めていきます。

財務面では、各施設の月次会計の精緻な把握と、法人全体の財務運用の見直しを行いました。また、法人全体で資金をリスクの低い商品にて資産運用し、将来の施設建設や設備買い替え等に備える基盤を整えました。

変化への対応

「新規事業・老朽化施設の建替への取り組み」

利用者の高齢化やニーズの多様化が進む中、新しいニーズへの対応や支援の見直しを進めました。

新規事業としては、リアン文京の放課後等デイサービス「ロード」開設や、障害者緊急受け入れ支援事業など、地域での新たな

な支援展開を始めました。ニーズの変化に柔軟に対応しながらより地域に根ざした支援に努めました。

施設整備の面では、練馬福祉園の建て替えが順調に進み、令和7年9月の竣工に向けた準備が着実に進められました。また、八王子生活実習所も令和11年の完成を目指し計画をスタートしました。大島恵の園・第2大島恵の園は、島外移転に向けた調整を段階的かつ確実に進めています。

支援の質を高める現場力と組織力の向上

今年度、「現場力の強化」を重点課題の一つとして取り組みました。その実現のため、各委員会による標準化・見直しを図り、支援の質の向上に向けた仕組み作りを進めました。

サービス向上委員会では、施設種別ごとに業務の標準化を進め、共通の支援方針を共有できる体制を構築しました。また、虐待防止委員会では、不適切支援の防止に法人全体として努めました。

また、全職員を対象としたストレスチェックや組織診断によ

むさしの武蔵野

暑さが命に 関わる時代に、福祉ができること

「命に関わる危険な暑さ」。近年気象庁が発するこの言葉が現実のものとして迫ってきています。今年も40度近い猛暑日が続く、熱中症による救急搬送や死亡のニュースが後を絶ちません。特に高齢者や障害のある方にとって、この暑さは「体力を奪うだけの気候」ではなく、「命を脅かす社会的リスク」になっています。

しかし、すべての人がエアコンの効いた室内で安心して過ごせるわけではありません。経済的理由から冷房を控える高齢者や、室温管理が難しい住環境で暮らす障害のある方など、支援の「すきま」にいる人たちの姿も見えてきます。さらに、当法人では軽作業や清掃、農作業といった外作業も行っており、気温の上昇による安全面の懸念が高まっています。「働きながら暑さとう向き合うか」は、福祉現場の新たな課題です。

通所施設では、水分補給の声か

り、職員が安心して働ける職場環境をつくることも支援の質向上に欠かせない要素と考え実施しました。

地域とともにある武蔵野会

利用者が暮らす地域との関係性を各事業所で深めていくことは、利用者が地域の一員として生活圏を拡大定着していくことにつながっていきます。地域での公益活動にも力を入れてきました。

例えば、日本福祉大学との連携プロジェクトでは、実践発表や研修会を通じて、武蔵野会の支援が地域に根づいている姿を広く報告できる機会でした。また、リアン文京の「リアンデつながるプロジェクト」では、町会等との連携によって、地域全体で福祉を支える新たなモデルが育ちつつあります。その他の施設でも子ども食堂やカフェを通じて地域に開かれた福祉を推進しました。

「もしも」に備える災害・感染症対策の取り組み

コロナ禍での教訓を活かし、「平常時にこそ備えを強くする」視点をもち、感染症対策と災害

対策について再構築しました。

事業継続計画に基づく訓練と研修を全施設で徹底し、法人の危機管理体制は新たな段階に入りました。

特に、法人防災委員会による

防災研修は、風水害・地震・噴火・内水氾濫など法人内の事業所の地域特性を踏まえた現実的かつ実践的な内容で行いました。多くの職員から「自分ごとで防災を考えられた」との声が届いています。社会でも防災に対する意識は高まっています。「もしも」の際の心配・不安に対する備えは、普段の安心にもつながります。

安心できる法人であり続けられるよう、災害や感染症対策の体制整備を進めてきました。

あとがきにかえて

武蔵野会の原点回帰、そして未来を見つめて

ともに生き、ともに生きる

8年間理事長を務めた高橋信夫の後任に、前法人本部長の山田貴美が令和7年4月に就任しました。

理事長の交代を機に武蔵野会

を振り返ると、法人のミッションである「人と人、人と社会をつなげ、共生社会を実現する」ことは、職員一人ひとりの「支援実践」によって日々形作ってきたということです。

武蔵野会は、福祉の制度に頼るだけでなく、人の力によって支援を形にする法人です。だからこそ、職員一人ひとりの想い、努力、誇りが何よりの財産です。支援現場に立つ職員、ご利用者のそばで寄り添う職員、施設を支える事務職員や管理職、その誰一人が欠けても成り立たません。

誰かの不安を和らげ、誰かの希望を支え、利用者の未来を築く。そうした日々の営みこそが、武蔵野会の事業の実績であり、真の事業報告だと思っています。

一人ひとりのご利用者とそのご家族が、それぞれの事情や背景を抱えて武蔵野会と関わっていただいています。改めて、この一年の感謝をお伝えいたします。これをもって、令和6年度の事業を報告させていただくとともに、新しい武蔵野会をスタートしていきます。

法人本部長

富山 孝行

け、室温の可視化、衣類の調整支援、送迎中の車内温度管理などを徹底しています。加えて、地域に開かれたカフェスペースを、暑さをしのぐ「地域の避暑地」として活用し、独居高齢者やご近所の方がふらっと立ち寄れる場づくりを進めています。「涼みに来たよ」と笑顔がこぼれるこの場所が、いのちとつながりを守る小さな拠点となっています。

一方で、福祉法人としての運営も厳しさを増しています。電気代の高騰は冷房の使用にも直結し、利用者の快適性と安全性を守りつつ、限られた運営費でどのようにやりくりするかが日々の悩みです。それでも、私たちは「暑さ」という新たな社会課題と向き合い、地域の中で誰一人取り残さない支援を続けていきます。

これからも「耐える夏」ではなく「安心して過ごせる夏」へ。人と人とのつながりを大切に、地域とともに支え合う福祉のあり方を育んでいきたいと考えています。

八王子福祉作業所

施設長 木下 理恵

ドッチビー
UNITY活動中！
リアン文京
地域活動支援センター
マイポジション

マイポジションでは、余暇活動として平日夕方に5つのプログラム（学習・Art・和太鼓・ダンス・ドッチビー）を展開しています。その中のひとつ、隔週金曜日の夜間に体育館で行っているドッチビーチームUNITYの活動の紹介です。UNITYとは「結束」を意味し、「チームで優勝を目指そう！」を合言葉に、14名のメンバーが練習に励んでいます。この活動は2019年、日本ドッチビー協会が障害に配慮した「ユニファイド部門」の大会を開催したことをきっかけに始めました。基礎体力づくりや技術向上だけでなく、仲間づくりやストレス発散の場にもなっており、声をかけ合



優勝を目指すUNITYのメンバー

い励まし合いながら、チームとしての絆が自然と深まっています。コロナ禍で大会や交流の機会が減少し、ユニファイド部門自体も低迷しましたが、今年度から復活に向けて新たな一歩を踏み出しました。日本ドッチビー協会・文化シャッター株式会社アルティメット実業団チーム Buzz Bulletsと連携し、体験会や交流会を通じて活動の輪を広げています。私たちUNITYは、これからもチームの力で前に進んでいきます！

侵入者対応訓練
すぎな愛育園きらきら

6月27日、園舎ホールにて南大沢警察署のご協力のもと、侵入者対応訓練を実施しました。女性職員が多いこと、避難時にサポートの必要な園児が多い現状を踏まえたアドバイスを受け、実践的な対応策を学ぶことができました。訓練では、警察への通報後バトカー到着までの10分間をいかに安全にやり過ごすかが重要であり、日常の支援に使うマットや飛び箱といった遊具がバリエーションとして活用でき有効であることが分かりました。また、さすまたを使った訓練も行いました。模擬訓練ではありましたが、偽刃物を手にして襲撃してくる警察官の表情と動きはリアルな犯行現場を思わせ、身の引き締まる思いで参加しました。

この訓練を機に現在の不審者対応マニュアルを見直し、さらに効果的な対応ができるよう備えていこうと考えました。また、災害訓練と同様に定期的に侵入者対応訓練を実施し、子ども達を危険から



さすまたの訓練を実施

ミヤンマー給食
さくら学園

さくら学園では特定技能1号の外国人材受け入れを令和5年から行っています。採用には少し不安もありましたが、深刻な人手不足解消のために必要と判断し、現在までにミヤンマーから6名（男性4名、女性2名）を採用しています。東南アジアを中心とした各国とオンライン面接を実施する中、ミヤンマーの方は仏教の教えに基づいた温和で穏やかな性格で、礼

法人決算報告書

社会福祉法人名 社会福祉法人 武蔵野会

法人単位貸借対照表

令和7年 3月31日現在

(単位：千円)

勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
資産の部		負債の部	
流動資産	5,067,466	流動負債	909,095
現金預金	3,961,602	事業未払金	273,499
事業未収金	904,973	1年以内返済予定設備資金借入金	42,118
未収金	254	1年以内返済予定リース債務	51,844
未収補助金	137,756	未払費用	168,489
貯蔵品	11,101	預り金	78,608
立替金	11,364	職員預り金	18,504
前払金	1,046	前受け金	30
前払費用	39,478	前受収益	1,137
仮払金	283	仮受金	1,080
徴収不能引当金	-390	賞与引当金	273,786
固定資産	12,263,159	固定負債	1,360,125
基本財産	6,799,037	設備資金借入金	728,015
土地	618,243	リース債務	107,122
建物	6,180,794	退職給付引当金	524,988
その他の固定資産	5,464,122	負債の部合計	2,269,220
土地	28,177	純資産の部	
建物	307,145	基本金	643,522
構築物	265,120	国庫補助金等特別積立金	5,639,165
機械及び装置	1,212	その他の積立金	1,130,181
車両運搬具	31,576	措置施設特定積立金	199,923
器具及び備品	167,331	施設整備積立金	1,324,714
建設仮勘定	2,310,288	人件費積立金	99,510
有形リース資産	127,975	工賃変動積立金	1,722
権利	929	就労設備整備積立金	4,311
ソフトウェア	4,134	次期繰越活動増減差額	7,648,538
無形リース資産	30,991	(うち当期活動増減差額)	230,516
退職給付引当資産	524,988		
措置施設特定預金	199,923		
施設整備積立資産	1,324,714		
人件費積立資産	99,510		
工賃変動積立資産	1,722		
就労設備整備積立資産	4,311		
差入保証金	24,918		
長期前払費用	9,158	純資産の部合計	15,061,406
資産の部合計	17,830,628	負債及び純資産の部合計	17,830,628

※千円未満切り捨て

法人単位事業活動計算書

(自) 令和6年 4月 1日 (至) 令和7年 3月31日
(単位：千円)

勘定科目		当年度決算(A)
サービス活動増減の部	収益	
	介護保険事業収益	701,371
	児童福祉事業収益	507,172
	就労支援事業収益	121,931
	障害福祉サービス等事業収益	8,209,188
	経常経費寄附金収益	17,684
	その他の収益	12,197
	サービス活動収益計	9,569,546
	費用	
	人件費	6,064,734
外増減の部	事業費	1,071,773
	事務費	1,802,944
	就労支援事業費用	135,324
	利用者負担軽減額	543
	減価償却費	423,054
	国庫補助金等特別積立金取崩額	-141,885
	徴収不能引当金繰入	168
	サービス活動費用計	9,356,657
	サービス活動増減差額	212,889
	収益	
特別増減の部	借入金利息補助金収益	1,642
	受取利息配当金収益	4,211
	その他のサービス活動外収益	62,089
	サービス活動外収益計	67,943
	費用	
	支払利息	3,982
	その他のサービス活動外費用	41,338
	サービス活動外費用計	45,320
	サービス活動外増減差額	22,623
	経常増減差額	235,512
繰越活動の部	収益	
	施設整備等補助金収益	1,358,446
	施設整備等寄附金収益	1,489
	特別収益計	1,359,935
	費用	
	固定資産売却損・処分損	959
	国庫補助金等特別積立金取崩額(徐)	-1
	国庫補助金等特別積立金積立額	1,358,756
	その他の特別損失	5,215
	特別費用計	1,364,932
繰越活動の部増減	特別増減差額	-4,997
	当期活動増減差額	230,515
	前期繰越活動増減差額	7,918,022
	当期末繰越活動増減差額	8,148,538
繰越活動の部増減	その他の積立金積立額	500,000
	次期繰越活動増減差額	7,648,538

儀正しく、目上の人や家族を大切にする方が多いと聞いていた通りでした。面接中の雰囲気も明るく笑顔で、利用者も受け入れていただけではないかと思ひ採用しました。入職直後は緊張で不安そうな表情でしたが今では利用者、職員と笑顔で話せることが多くなりました。今回写真で紹介するのは毎月提供しているお楽しみ給食の「ミャンマー料理」です。本格的な味付けとはいきませんが、ミャンマー風の味付けをした炊き込みご飯、チキンのトマト煮、春雨と野菜スープ、コナツツミルクラブリンを提供しました。紙製のランチョンマットに6名の顔と名前を印刷し紹介すると、利用者にとっても好評でした。



ようこそ、さくら学園へ

こどもまつり開催 小平福祉園

6月21日（土）に「こどもまつり」を開催しました。利用者はもちろん、地域の方やこれまで福祉園を利用されていた方などたくさんの方に今年もご来場いただきました。和太鼓やハンドベルの演奏に加え、バルーンアートなど参加型の催しを行い、市のご当地キャラクター「ぶるべー」や「コダレジンジャー」も登場し、大いに盛り上がりしました。体験スペースでは子供同士で誘い合って参加する姿や、お子さんに手を引かれ親子で参加する方など微笑ましい場面もたくさん見られました。また、まつりの開催にあたって小平市立小平第六中学校の地域活動部（部活動）に所属する中学生がボランティアで毎回大勢参加してくれています。模擬店では大きな声で「ポテトいかがですかー」と呼び込みをしたり、マイクで司会進行を務めてくれるなど、とても頼もしい限りです。小平福祉園は地域の色々な方に助けていただきながら、これからも気軽に来て楽しい

時間を過ごしていただける様々な催しに力を入れていきたいと思ひます。



中学生ボランティアも大活躍～楽しいひと時のこどもまつり

すてつぷ音楽会 光が丘障害者地域生活 支援センター

6月29日（日）、光が丘区民センター多目的ホールにて、毎年恒例の「すてつぷ音楽会」を開催しました。今年は利用者23名、地域住民22名、合わせて45名の方にご

出演いただきました。

今回のプログラムは、すてつぷ利用者によるピアノ演奏、地域住民による大正琴演奏、利用者による歌唱と大正琴のコラボレーション、利用者と地域住民共演による合唱やダンス、ミュージックベル演奏などです。皆さんが日々コツコツと練習を積み重ねた成果を披露いただき、多種多様な素晴らしい発表に会場はとても盛り上がりしました。

ミュージックベルの発表は、すてつぷが毎年開催する音楽ワークショップとして、3ヶ月に渡り練習を重ねた集大成です。今年はすてつぷ利用者と地域住民の合わせて23名が参加しました。プログラム最後のお客様も交えた合唱では、皆さん快く一緒に歌ってください、とても温かい合唱となりました。

当日は103名のお客様にご来場いただくとともに、温かいご意見ご感想をたくさんいただきました。ありがとうございます。地域住民の方との共演を称賛してくださるお客様も多く、嬉しく思います。



会場が一つになった音楽祭

分身ロボットで つながる世界

ジョブ・サポート・プラザちよだ

皆様はOriHimeを「存じでしょうか。カメラやマイク、スピーカーを搭載し、インターネットを通して遠隔操作ができるロボット

です。千代田区は、障害などのある方の働き方に新しい選択肢があることを知ってもらうことを目的として、令和6年度からOriHimeを区立障害者福祉施設等で実証的に運用しています。昨年は千代田区立障害者福祉センターえみふる



接客するOriHime

で運用、今年は千代田区立障害者就労支援施設ジョブ・サポート・プラザちよだで運用しています。始めはどこから声が聞こえてくるのか分からず不思議な存在でしたが、今ではすっかり職員の一人として地域に溶け込んでいます。OriHimeは、単なるビデオ通話と異なり、操作することで遠隔地にいながらも「その場にいる」感覚が得られます。首や腕を動かすことができ、傾いたり身振り手振りを交えることで、より豊かな感情表現やコミュニケーションが可能です。働く意欲はあるけれど、距離や身体的・精神的な制約で就労につながらないといった「壁」を乗り越え、働くことを通じて地域での役割ややりがいを実感し、誰もが社会に参加できる未来を目指しています。



練馬福祉園

建て替え工事は予定通りに進んでいます。本設建物は完成しており、現在各官庁の検査が進行中です。8月になると家具・家電等の備品が搬入され、8月末に引越となります。この後も喫茶棟等の外構工事が進められます。新しい環境での生活が楽しみです。

白鳥福祉館

学校法人神戸学園グループ様から善意銀行を通じて台湾バナナのご寄付をいただきました。芳醇な香りで館内はまるで南国のよう。バナナは思い思いのパフェに変身。コロナ禍で控えていた活動を少しずつ復活させています。

大島恵の園

今年度から研修効果を高め、両園の連携を深めるために、合同の研修会を毎月始めました。参加者は多く取れませんが、グループワークを中心に、取り組みの違いにも言及しつつ共有を進めています。研修後の懇親会も定例化しそうです。

第2大島恵の園

7月の伊豆大島は地域の盆踊りやお祭りが真つ盛りです。参加した利用者は踊りや模擬店を堪能し

ていました。8月は園内で、かき氷、すいか割り、花火と夏の行事が目白押しです。利用者の笑顔が楽しみです。

光が丘福祉園

7月26日（土）に真夏のイベント「ひかりまつり」を開催。ミストシャワーなどの暑さ対策のもと、和光市民吹奏楽団の演奏や涼しげで美味しい模擬店、楽しいゲームやレジン小物のワークショップなどで賑わい、小平福祉園、北町福作の販売も人気上々でした。

希望の里

希望の里では、月1回「あつまれM+スポーツ」を実施しています。講師は、「あつまれ愉快な仲間たち」の音楽メンバー3名で希望の里祭りでもお馴染みの方です。音楽にダンス、ストレッチ体操、ボールを使ったゲームを取り入れ創意工夫されたプログラムが、利用者の皆さんに好評です。

きね川福祉作業所

8月は施設内の「夏季期間行事」、9月は一般開放で「GENKIまつり」を開催します。自治会役員も、自分が担当する各行事の準備に動き出しています。

烏山福祉作業所

近隣にある特別支援学校小学部から中学部の保護者を対象とした施設見学会を4回に分けて実施し、50名ほどの方が見学に來られました。

28日(火) ハピひかハロウィン (光が丘福祉園)

iPad 端末寄付
光が丘福祉園

